

静岡県 防災・原子力学術会議 令和8年度

第2回地震・火山対策分科会・

第2回津波対策分科会 合同分科会

令和8年度第1回合同分科会 の振り返りについて



第2回合同分科会でいただいた主な指摘・意見と対応方針（1 / 3）

No.	委員	主な指摘・意見	対応方針等
【被害想定全般】			
1	家田委員	分析結果はどの空間解像度で公表・施策利用するのか。	基礎データや、計算手法に応じて、適切な空間解像度を考慮して公表・施策利用します。 地震動・液状化250mメッシュ、津波10mメッシュ。建物被害は町丁目単位も検討しますが、人的被害は市町村単位を予定しています。
2	家田委員	被害想定は県民意識向上や政策判断に生かす視点が重要で、被害想定自体を目的化すべきでない。	地震被害想定は、自治体における地震・津波対策のための基礎資料となるものですが、県民に対しては地域のリスクを知っていただき、事前の備えや津波からの早期避難に結びつけていただくものでもあります。 一方、今後設置される防災庁では、地震被害想定で示された被害量に対し、定量的弱部分析手法を用いて地震・津波対策の政策立案等を進めていくことも検討しているようです。
	小長井委員 今村分科会長	第5次被害想定ミッションはどこまでなのか。防災庁との関係も含め整理が必要ではないか。	
【自然現象の想定】			
3	小山委員	AVS30分布では静岡市周辺が軟弱地盤に見える一方、安政東海地震再現結果では震度が比較的小さい。過去の震度資料が少ないことや、当時は自然堤防など地盤の良い場所にしか人が住んでいなかったことによるバイアスがあるのではないか。	過去地震は100年以上前の地震であり、震度データの精度等に限界があります。強震動生成域の位置の影響も考えられるため、他パターンも計算し全体傾向を確認していきます。また被害想定では震度分布のみでなく、強い揺れへの備えを促す記載も行っていきます。
4	山本委員	資料に「沖積層基底面」と「完新統基盤面」の表現が混在しているが、意味を使い分けているのか。	意味としては同じものとして扱っているので、今後記述を統一します。
5	山本委員	箱根付近で以前は震度7相当だった場所が今回なくなっているのは、地盤増幅度変更によるものか。	原因は国の相模トラフ沿いの地震モデルの変更によるもので、地盤モデルの変更によるものではないと思われます。国の最新のモデルでは、神奈川県側の震源域やSMGAが縮小し、全体的に揺れが小さくなっています。（議事2にて詳細説明）
6	小山委員	大正関東地震の実績データを使った検証はできないか。	大正関東地震について国の資料などに基づき検証を行いました。（議事2にて詳細説明）
7	阿部委員	震度比較グラフだけでなく、過小評価地点を地図へ落として可視化した方がよい。	今後検討していきます。

第2回合同分科会でいただいた主な指摘・意見と対応方針（2 / 3）

No.	委員	主な指摘・意見	対応方針等
8	小長井委員	液状化評価は詳細化されているが、国土地理院の簡便手法「SGDAS」との比較も必要ではないか。	SGDASによる液状化評価について検証しました。（議事2にて詳細説明）。
9	山本委員	液状化の結果は自身の認識や保有データとも整合的で妥当と感じる。	—
10	原田委員	液状化結果は天竜川河口だけでなく菊川や御前崎沿岸でも変化が大きいように見えるが理由は同じか。	地盤モデルの見直しの影響と考えています。地域ごとの理由説明が必要と認識しています。
11	水谷委員	液状化評価に用いる地下水位はボーリング時の瞬間値か。また季節変動は考慮されているか。	微地形区分毎に孔内水位を利用して設定しています。季節変動や降雨影響は考慮していません。
12	水谷委員	追加されたボーリングデータは危険度の高い地域に偏っているのか。	既存の公共事業由来のデータを収集しています。危険度を考慮したものではありません。
13	小山委員	水系区分図で大井川・天竜川扇状地の区分が実際の地形と合っていないように見える。	図は扇状地区分ではなく管理上の水系区分です。指摘内容については区域分けできるか確認しましたが、扇状地を含めた区分けが困難だったため、水系別分析は行わないこととします。
	阿部委員	水系別分析には統計量やばらつきも示した方が妥当性判断しやすいのではないか。	
14	後藤委員	礫層の平均粒径はどのような基準で選定しているか。深さ方向で変化するのはないか。	礫主体層の試験結果を全て利用して整理しています。
15	小山委員	液状化結果でも静岡市周辺で前回より可能性が下がっているため再確認してほしい。	確認しました。（議事2にて詳細説明）
16	小山委員	斜面災害ゾーニングは実際の地すべり分布と整合していないように見える。	国土地理院の新手法を引用したものです。静岡県での適用性について検証していきます（議事2にて詳細説明）。
17	小長井委員	SGDASは速報性重視なので詳細評価とは性格が異なることを明示すべき。	現状用いられる中で最も妥当と考えられる手法を採用し、限界や注意点を示しながら検討していきます。（議事2にて詳細説明）
18	小長井委員	踏み込んだ議論は難しいが、雨があった時の想定について常に疑問を持っていた方が良い。	前後に雨が降った場合というのは当然警報の頻度も上がることもあり、リスクが高まっているということは示す必要があると考えます。
19	家田委員	地盤改良や擁壁などを液状化・斜面災害評価へどう反映するのか。	現時点では人工的な要素を十分反映できていないので、そのようなリスクがあることを定性的に示していきます。

第2回合同分科会でいただいた主な指摘・意見と対応方針（3 / 3）

No.	委員	主な指摘・意見	対応方針等
【被害想定】			
20	中埜委員	津波被害評価は木造・非木造の区別のみで、建物規模や高さは考慮していないのか。	考慮していません。
21	中埜委員	建物高さや階数を考慮した津波評価手法を採用しないのか。津波流体力による損傷ではなく浸水深だけで評価している理解でよいのか。	過去の事例を参考にしています。地震動による建物被害については階数別評価を行います。津波被害は浸水深に基づき評価します。
22	山本委員	津波に対して階層の違いを考慮できる評価方法はあるものの、柱の太さがわからないと評価できないため、被害想定で考慮することは難しいかと思う。	—
23	田中委員	受援量や復旧需要を考えるなら建物階数等を考慮した評価も必要ではないか。	過去事例等に基づくデータが得られるか分かりませんが、今後検討します。
24	福和委員	非木造の被害率曲線が11階以上と記載しているが、16階以上にも適用しているのか。	16階以上の建物についても適用しています。
25	山本委員	津波火災についても、 <u>被害を低減させる方法を検討した</u> ほうが良いのではないのか。	津波火災については、プロパンガスや自動車数を説明変数とした出火予測を行なう予定ですが、出火要因は他にも多くあると考えられることから、被害軽減に向けて、国などによる今後の検討を待ちたいと思います。
【その他】			
26	田中委員	南海トラフ半割れケースなど繰り返し地震による被害評価は行うのか。	いわゆる「半割れ」のケースについても、被害想定を行います。

